

令和元年度第2回北本市立小・中学校通学区域審議会 審議のまとめ

1 答申について

(1) 審議の結果、内容については以下のようにまとまった。

- ①学校規模の適正化を図る。
- ②適正配置に伴う通学区域の見直しをする。
- ③隣接する小学校と統合する。
- ④「通学距離」「保護者の意向」に対する配慮が必要。→通学区域の弾力的対応
- ⑤いつから実施して、どのように定着させるか。

(2) 審議の結果を基に、事務局が案を作成し、第3回審議会にて提示する。

(3) 第3回北本市立小・中学校通学区域審議会で検討し、決定する。

2 委員から出た意見について

(1) 通学区域の見直しに関する意見

- ・子供たちのために第一に考えるとしたら、公団地域コミュニティーのよさを守っていきたい。
- ・公団地域は、自治会やコミュニティーが活発に子供のために活動している。老人会や民生委員も地域の見回りなどをして、保護者や子供たちとの距離が近い。ここがいいところであるので、よさを生かした上で他の学校に受け入れてもらえるかを考えるとよいと思う。
- ・コミュニティーを分断するような通学区の見直しでは、児童に負担がかかる。公団のコミュニティー活動は進んでいる。だからこそ、児童・保護者が満足いくものを考えないといけない。
- ・石戸小学校区は建売住宅が増えてきているので、この先児童数が増える可能性もある。栄小学校区から転出する家庭も加味すると、今後考慮が必要な数字になる。
- ・公団地域が縮小となった際に、浮いた土地が公園等ではなく、マンションや戸建となった場合、町全体の動きが変わってくることが予想される。これらのことを総合して考えていかないと、北本市内の他の地域でも同じことが起こってしまう可能性がある。よって、市全体のことを考えていく必要がある。
- ・地域ありきなのか、子供たちの健全な育成ありきなのか。どちらも大切ではあるが、コミュニティーの圏域を考えることは時間がかかる。その間、栄小の児童はこのままでよいのか。

(2) 栄小学校の存続に対する意見

- ・人数は多かろうが少なかろうが学校があること、それが地域である。栄小を存続した上で学校を見直してほしい。
- ・地域としては「学校が残る」ことの意味が大きいので、考慮してほしい。
- ・栄小の保護者の経済的負担についてである。栄小が現状のまま存続した場合、教育に関する費用、とりわけ校外学習や教材費に関しては、人数が少ないことによって割高になるのではないかという懸念がある。全市内の一般的な教育費用と勘案して、栄小保護者の経済的負担が大きくなった場合、市は補填などの考えはあるのか。
 - 保護者の経済的負担については、今のところ予算計上はしていない。
- ・西中学校敷地内に栄小を残し、小中一貫校とする場合、現行の学校4・3・2制を大きな枠組みとして教育特区という扱いにするのか。
 - 教育特区については、もし小中一貫校という流れになれば、特区申請することとも考えられるが、今のところ小中一貫校にする予定はない。
- ・公団地域の周りの戸建がある地域も吸収してコミュニティーとしての地域性を作っていくことが大切だと思う。コミュニティーの見直しも検討していかななくてはならないと考えている。統廃合については、簡単に結論を出さないほうがよい。
- ・栄小の学区を広げようとした場合、隣接している石戸小・南小・西小にもアンケートを取るべきである。

(3) 栄小学校の統合に対する意見

- ・栄小の頑張っている児童をどうするのが原点であるので、他校の学区は変更することなく、栄小の児童をどうしていくかを考えていくことがよいかと考える。
- ・栄小の児童が南小・石戸小・西小へ通学することが考えられるが、受け入れる3校のメリットがあるか考えてしまう。
- ・統廃合もやむなしではあるが、公団地域のコミュニティーで培ってきた地域とのかかわりが担保されるようなことを考慮してほしい。
- ・現在栄小や公団地域で行っていることが残されていくような策を講じてほしい。
- ・学習センターから、石戸小・南小・西小までの距離を自動車で測ったところ、ほぼ同じ距離だった。歩いても通学距離の範囲であると考えられる。
- ・栄小の児童が他校に通学することになっても、その学校において大きな人数の変化はないと思っていたところ、石戸小に通学することになると、学級数が増加することが分かった。ただ、今は小さな動きでしかないので、全体を見て通学区域を変えていく必要があると感じた。
- ・今は栄小の話題であるが、参考資料を見ると、石戸小学校区も視野に入れて考えていくべきだと思う。石戸小学校区はとにかく広く、他市町に隣接している。学区

自体も自然豊かではあるが、児童が減少している。数年後には、一人で登下校しなくてはならない児童も出てくると思う。栄小学校が主に話題となっているが、石戸小学校とセットで考えていくことも一つの選択肢だと思う。

- ・栄小を分けるのではなく、一つの地域として、他校と一緒にさせていただいたほうが子供たちにとっていいと考える。南小に来ていただければ大歓迎であるが、全体のことを考えると石戸小と一緒にあって、人数が増えた上で学校生活が送れたほうがよいと思う。
- ・周りの住宅も増えているので、石戸小の児童はこれ以上減ることはないと思う。今後、公団地域が縮小した後に新築住宅の建設等で発展していくこともあるかもしれないが、現状としては、一つの学校へ通学させることがよいと考える。
- ・公団地域は広いので、在住している街区によって隣接する学校への距離が違う。しかし、コミュニティーを考慮すると、公団地域に在住する児童として1つの学校へ通学できることが望ましいと思う。また、他校の学区を変更し、栄小が校区を広げたとしても、今度はその学校児童が減り、同じような現象が起きてしまうのではないか。今は目の前にいる子供たちのことを考えることが必要である。人口が増えた時には、その時にまた考えればよい。
- ・児童生徒の通学の安全を第一に考えていくことが大事である。
- ・登下校の安全を確保が一番重要ではないかと考える。
- ・現状を考えると、南大通りは圏央道につながったこともあり、非常に交通量が多い。また、公団付近には、桶川市に抜ける道があり、こちらも交通量が多い。これらを考慮し、通学区域を考えないといけない。
- ・就学前の段階で友達のいる学校であれば、比較的集団に入りやすいと考えるので、幼稚園の近いところへ通学させてあげることがあってもよいのではないか。

(4) 保護者への配慮に対する意見

- ・統廃合に関すること、及び学区の見直すことについて、隣接する学校の保護者にもわかってもらう必要があるのではないか。
- ・「通学距離」「保護者の意向」に対する配慮が必要である。